

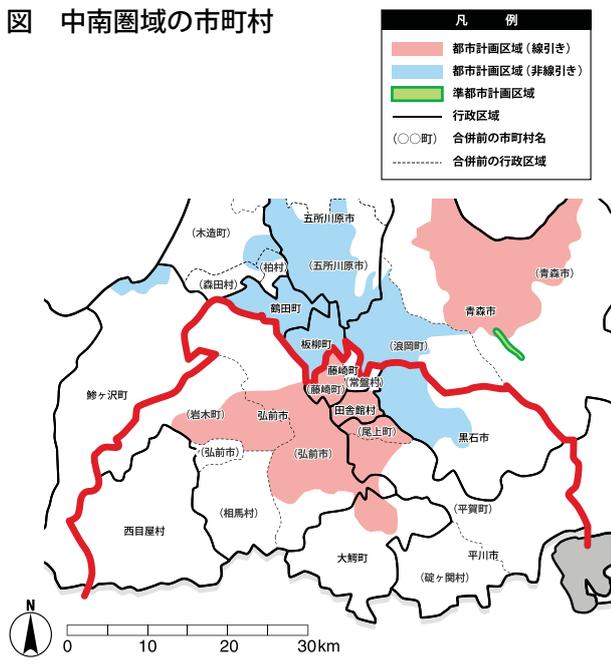


中南圏域

県を代表する美しい景観や歴史に抱かれながら、一体的に発展する圏域

- [構成市町村] 弘前市・黒石市・平川市・西目屋村・藤崎町・大鰐町・田舎館村(3市2町2村)
- [人口] 301,388人
(青森県全体の21.0%/平成17年国勢調査より)
- [面積] 155,592ha(青森県全体の16.2%)

図 中南圏域の市町村



中南圏域は青森県の南西部に位置し、弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村の3市2町2村で構成されています。人口は青森県全体の21.0%、面積は青森県全体の16.2%を占めています。

本圏域は自然環境に恵まれ、秀峰岩木山や八甲田連峰、世界自然遺産白神山地など、我が国を代表する資源があります。岩木川やその支流の平川・浅瀬石川が津軽平野を貫流しており、日本海を臨む十三湖に注いでいます。

弘前市に弘前藩10万石が、黒石市にその支藩として1万石が置かれ、現在はその歴史を伝えるまち並みが各所に残されています。

かつては多くの市町村が存在していましたが、昭和の大合併で、弘前市、黒石市、岩木町、藤崎町、大鰐町、尾上町、平賀町、相馬村、西目屋村、常盤村、田舎館村、碓ヶ関村となり、その後の平成の大合併で現在の姿になっています。

I 中南圏域の特徴と課題

(1) 豊かな地域資源や圏域外を結ぶ良好な交通ネットワークをいかして産業が振興している圏域

特徴 1

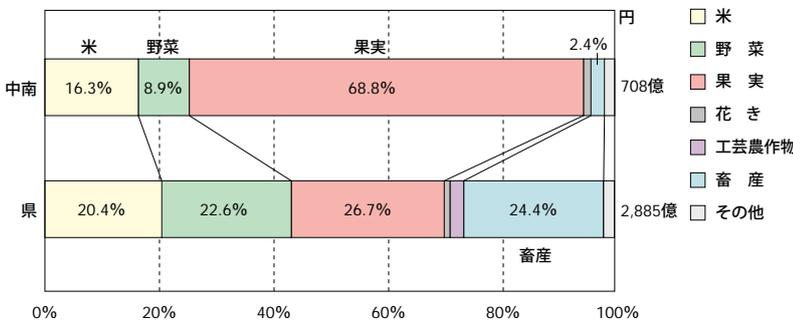
本圏域の農業は、米とりんごの生産が中心に行われています。

本圏域は、白神山地に源を発する岩木川とその支流の浅瀬石川、平川によって形成された肥沃な津軽平野に位置し、平野部は弥生時代から米の生産が行われてきた豊かな穀倉地帯となっています。さらに、明治時代の殖産興業政策

によって始まったりんごの栽培も盛んで、水田周辺の丘陵地には、日本を代表するりんごの樹園地が広がっており、りんごをはじめとする果実は、圏域の農業産出額の約7割を占めています。

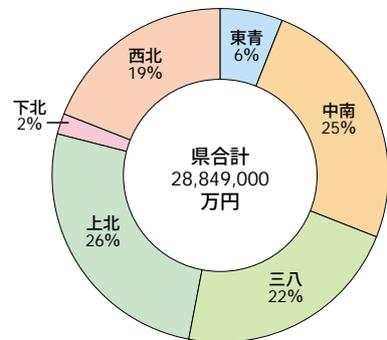
その他、にんにくや野菜、畜産など多様な作物も生産されており、「食」を支える重要な生産基盤が形成されています。

図 平成18年農業産出額の品目別割合



資料:生産農業所得統計

図 平成18年農業産出額割合



資料:生産農業所得統計

課題 1

豊かな穀倉地帯や日本を代表するりんごの生産地であることから、それらの生産基盤である水田や樹園地などの保全が求められています。

特徴 2

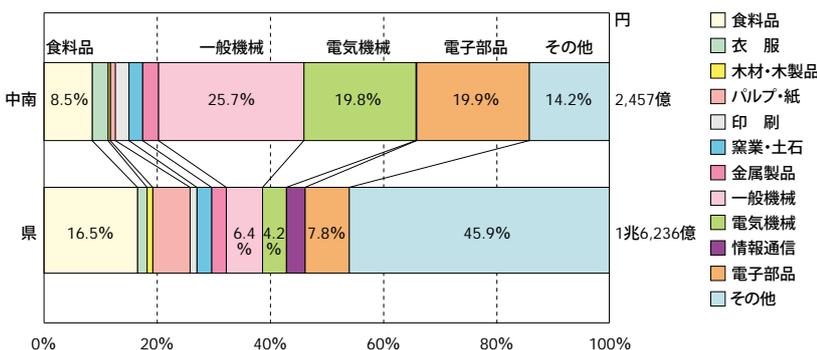
本圏域の製造品出荷額などは、他圏域と比較して「電子部品」、「精密機械」、「電気機械」、「一般機械」などの占める割合が高く中でも、光技術産業関連企業や、高い医療機関の集積を活用して医療用画像処理装置を世界展開している企業など、先端技術産業の立地が見られます。

このような産業の集積は、昭和50年代初頭に黒石市などが農村地域工業導入促進法などを活用して工業団地を整備した

ことに始まり、その後、青森県で初めての高規格幹線道路である東北自動車道の開通や青森空港の開業など、立地条件が向上したことによるものです。

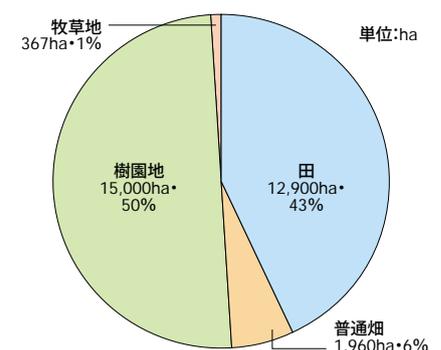
現在は、弘前市をはじめ、黒石市、平川市、藤崎町、大鰐町、田舎館村などで、鉄道駅、IC周辺など交通利便性に優れた場所に工業団地が整備されていますが、一部の工業団地では企業立地の促進が必要となっています。

図 平成18年製造品出荷額等割合



資料:県企画政策部「平成18年青森県の工業」

図 平成18年中南圏域の耕地種類別面積



資料:青森県統計年報

課題 2

研究・開発機能や先端技術産業などの集積とともに、充実した物流基盤をいかし、既存の工業団地などを中心とした工業立地の促進が求められています。

特徴 3

本圏域では、国道・県道が比較的高い密度で配置されています。現在、圏域内の国道7号などの主要幹線道路では、渋滞の解消やICまでのアクセス強化のため、拡幅整備が行われています。また、圏域の東側に東北縦貫自動車道弘前線が南北に縦断しており、3箇所のICが配置されています。さらに広域交通としては、隣接圏

域の比較的近い位置に青森空港があり、また平成22年12月には東北新幹線新青森駅が開業予定です。

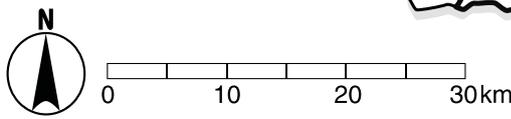
また、本圏域には津軽地方最大の祭りである弘前ねぶたや、弘前城や「こみせ」などの歴史的建造物、また温泉地も各地に分布しており、充実した交通網はこれらの観光・交流資源を支える重要な要素にもなっています。

課題 3

渋滞の解消やICまでのアクセス強化に向け、国道7号をはじめとした主要幹線道路の整備が求められています。

図 交通網の状況

凡 例	
	国道
	主要地方道
	広域農道など
	高規格幹線道路
	高規格幹線道路(整備・計画中)
	JR線
	JR線以外の鉄道
	新幹線
	新幹線(整備中)
	行政区域
	合併前の市町村名
	合併前の行政区域
	役場・市役所



(2) 弘前市を中心にコンパクトに都市がまとまり、都市機能を連携している圏域

特徴 1

本圏域は、圏域人口の6割を占める弘前市を、中小規模の都市が比較的近い距離で取り囲む圏域構造となっています。

圏域の北側に開かれた平野部では、国道や高規格幹線道路、鉄道網などが充実しており、平野部にある各都市を緊密に連携しています。弘前市から最も離れた距離にある西目屋村や

平川市碓ヶ関地区においても、路線バスや鉄道によって弘前市まで1時間以内でアクセス可能です。本圏域では、通勤・通学、医療、商圈構成などの面で、弘前市を中心とした一体性の強い圏域構造となっており、また、各都市間では、東北初となる津軽広域連合が結成されています。

課題 1

弘前市を中心としたコンパクトで一体性の強い圏域構造の強化が求められています。

特徴
2

本圏域の中心都市である弘前市は、商業・業務、教育、医療など、津軽地域の中心地としての高次都市機能が集中しています。特に、弘前大学をはじめとする高等教育機能や研究開発機能、大学付属病院などを中心とした医療機能、国の行政機能などの集積がみられます。中心市街地においては空洞化が進んでいることから、土手町地区を中心としたまち並み整備など、活性化に向けた取り組みが進められています。

圏域第二の人口規模を有する黒石市は、教育や医療など弘前市の都市機能の補完的役割を担っています。その他、平

川市の平賀・尾上地区では、農工併進型の産業機能や居住機能、碓ヶ関地区では、農林産物や木材の供給地としての機能、また、鉄道の分岐点である田舎館村（川部地区）や鉄道駅が2箇所立地する藤崎町においては、良好な交通条件をいかした産業機能や居住機能を有しています。さらに、全県で最も規模の大きい広域公園が立地する大鰐町においては、温泉・スキーをはじめとした健康・保養・スポーツ機能を有しています。

弘前市岩木地区や相馬地区など、一定規模の人口集積がある地区においては、日常生活に必要な機能の維持が必要です。

図 医療依存度

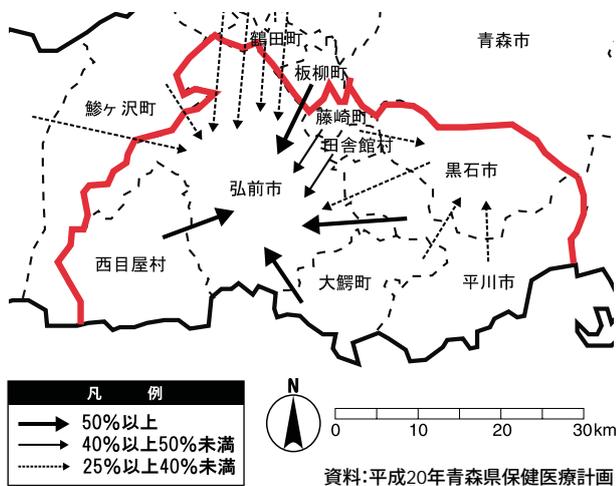
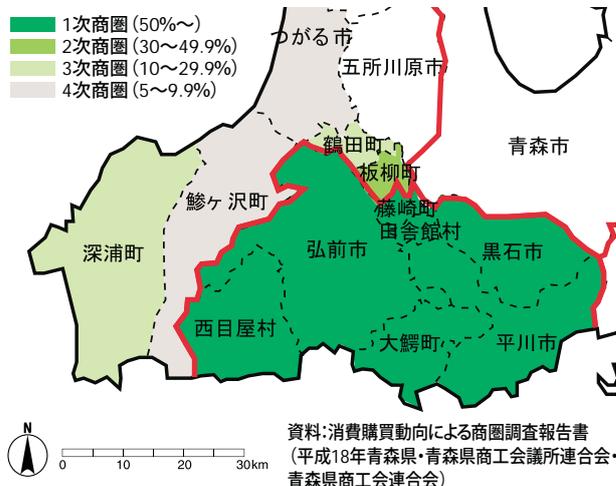


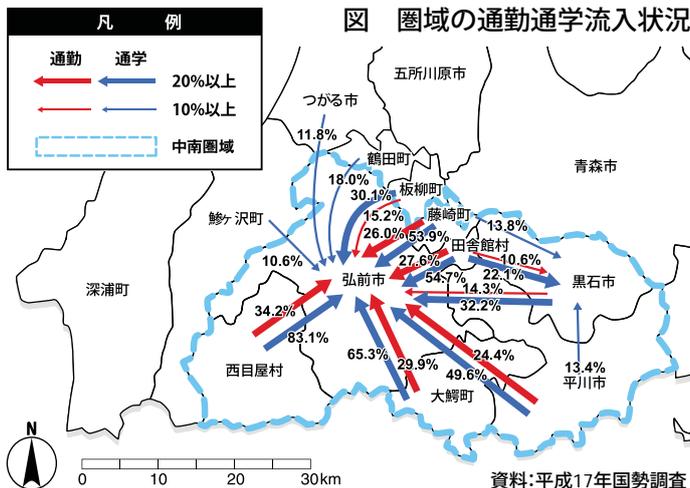
図 弘前商圈



課題 2

弘前市においては、津軽地域の中心地としての高次都市機能の充実・強化や中心市街地の活性化が求められています。

黒石市においては、弘前市を補完する機能、その他の都市においては、産業機能や居住機能の他、それぞれの特徴をいかした個性ある機能を充実・強化させることが求められています。人口減少・高齢化が進む中でも持続可能な圏域としていくため、一定規模の人口集積がある地区においては、身近な生活サービス機能の維持・確保が求められています。



特徴
3

本圏域では、高次都市機能を有する弘前市を中心とした圏域構造となっており、各都市と弘前市を結ぶ国道・県道などの交通基盤の他、鉄道、路線バスなどの公共交通が重要な役割を果たしています。交通基盤は比較的充実していますが、圏域内の鉄道であるJRや弘南鉄道、また路線バスの乗降客数は減少傾向にあります。

課題 3

圏域の一体性を高めるため、鉄道や路線バスなどの公共交通ネットワークの充実が求められています。

(3) 白神山地・岩木山や弘前藩の歴史など、世界水準の固有の自然や景観を有する圏域

特徴 1

本圏域では、白神山地に源を発する県内最大の一級河川である岩木川が、平野部に広がる各都市をつなぎ、圏域のすべての市町村が岩木川の流域となっています。

また、地域のシンボルである岩木山を含む津軽国定公園をはじめ、世界自然遺産白神山地、十和田八



岩木山 (弘前市提供)



黒石市中町重要伝統的建造物群保存地区 (こみせ) (黒石市提供)



弘前市中町重要伝統的建造物群保存地区 (弘前市提供)



弘前城 (弘前市提供)

幡平国立公園の他、全国のみならず広く世界に誇ることのできる自然資源が、岩木川水系を囲むように位置しています。

課題 1

すべての市町村が岩木川の流域にあり、また上流域を囲む形で貴重な自然資源が位置していることから、圏域が一体となってその水質と自然資源の保全に取り組むことが求められています。

特徴 2

本圏域では、岩木山と水田・樹園地とのコントラストなど、地域のアイデンティティを支える美しい風景が形成されています。

藩が置かれた歴史を有する弘前市や黒石市の中心市街地

には、弘前市中町重要伝統的建造物群保存地区や弘前城、黒石市中町重要伝統的建造物群保存地区の「こみせ」など、弘前藩に縁のある歴史が感じられる魅力的な資源や、明治大正期のおもむきのある建造物が存在しています。

課題 2

地域アイデンティティを支える自然景観の保全・創出や、弘前藩や明治大正期の歴史・文化が感じられるまち並み景観など、魅力的な資源の保全・活用・継承が求められています。

図 中南圏域の自然資源

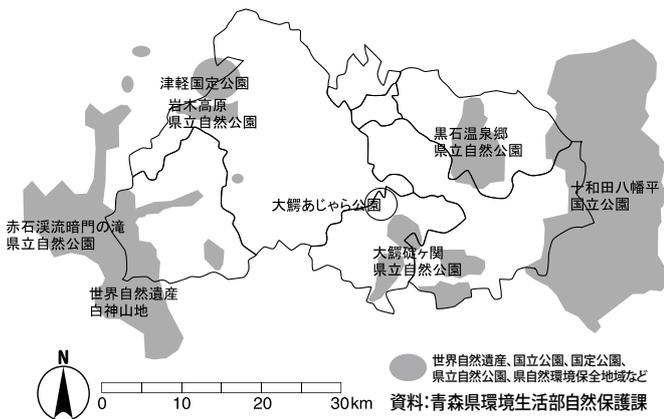


図 河川の状況 (県管理2級河川以上のうち主なもの)



特徴 3

岩木川の上流部に世界自然遺産白神山地が位置しており、岩木川沿いには全県で最も規模の大きい都市緑地である岩木川緑地があります。また、岩木川の支流である平川や浅瀬石川のそれぞれの上流部には、大鱧ヶ関温泉郷県立自然公園や全県で最も規模の大きい広域公園である大鱧あじやら公園、黒石温泉郷県立自然公園などが位置しています。

このように、本圏域では、豊かな自然資源と岩木川の本支流で構成される水と緑のネットワークが形成されています。

課題 3

豊かな自然資源と岩木川の本支流で構成される水と緑のネットワークの保全・活用が求められています。

II 圏域の将来像

県を代表する美しい景観や歴史に抱かれながら、一体的に発展する圏域

本圏域では、貴重な自然・歴史資源に恵まれており、弘前市を中心に各都市が緊密に連携しています。産業面では、米とりんごを中心とした農業や、地域の優位性をいかした先端技術産業が展開されています。

今後は、津軽の母なる川「岩木川」の上流域に古くから展開されている豊かな穀倉地帯・樹園地を保全しながら、大学や研究機関の集積をいかした先端技術産業や研究開発型産業の展開をめざします。また、弘前市を中心に個性的でコンパクトな都市が緊密に連携し、世界に誇る自然景観や歴史文化をはじめとする地域のアイデンティティに支えられながら一体的に発展する圏域をめざします。

このような将来像を(1)産業、(2)生活、(3)環境の各側面に分け、そのあるべき空間構造を整理すると、以下の(1)～(3)のように描かれます。

(1) 安全安心な食の生産基盤の保全と先端技術産業が振興する圏域

豊かな穀倉地帯・樹園地として、圏域全体に広がる水田や樹園地などの良好な農地の保全をめざします。

研究・開発機能や先端技術産業などの集積や、弘前市に近く利便性の高い特色をいかし、既存工業団地などにおける土地利用の充実をめざします。

圏域の農業・先端技術産業・観光などの振興を支える、物流・交通基盤の充実・強化をめざします。

(2) 都市機能の集積をいかした持続的なまちづくりを実現する圏域

弘前市においては、津軽地域の中心地としての高次都市機能の充実・強化と、にぎわいと活気を感じられるまちをめざします。

黒石市においては、弘前市の補完機能の充実・強化をめざし、その他の都市においては、それぞれの個性ある機能の充実・強化をめざします。

人口減少・高齢化を踏まえ、身近な生活サービス機能の維持・確保をめざします。

弘前市に円滑にアクセスでき、多様な都市機能を楽しむ圏域内における公共交通ネットワークの充実・強化をめざします。

(3) 岩木山など固有の自然や、歴史・文化をいかした美しい景観を創出する圏域

岩木川水系で構成される豊かな水資源や、世界に誇る自然資源の保全・活用をめざします。

地域の歴史・文化資源である伝統的なまち並みや、岩木山の眺望、豊かな田園風景や特色ある自然景観の保全・活用・継承をめざします。

岩木川や豊かな自然、公園・緑地などで形成される、圏域全体にわたる水と緑のネットワークの保全・活用をめざします。

III 都市づくりの方針

(1) 「安全安心な食の生産基盤の保全と先端技術産業が振興する圏域」

【土地利用に関する視点】

- 樹園地や水田などの農業生産基盤の保全
- 弘前市の市街地にアクセスしやすい環境や、高次な学術・研究機能を有する優位性をいかし、研究開発機能や先端技術産業などの立地促進に向けた、既存工業団地などにおける土地利用の推進

【都市施設の整備に関する視点】

- 圏域内の各市街地とICとを連絡する主要幹線道路の整備など、圏域の産業を支援する物流基盤の充実・強化
- 青森空港や東北新幹線新青森駅と本圏域を連絡する、広域交通ネットワークの充実・強化



(2) 「都市機能の集積をいかした持続的なまちづくりを実現する圏域」

【土地利用に関する視点】

- 弘前市における、津軽地域の中心となる学術機能の集積など高次な機能の充実・強化と、中心市街地の活性化・魅力の向上
- 黒石市における、教育や医療などの都市機能の充実・強化と、地域固有の歴史・文化資源をいかした中心市街地の再生・魅力の向上
- 一定規模の人口集積がある地区における、身近な生活サービス機能の維持・確保

【都市施設の整備に関する視点】

- 一体的な圏域構造を支える、鉄道や国道、県道などの交通基盤や日常生活を支える公共交通の充実・強化



(3) 「岩木山など固有の自然や、歴史・文化をいかして美しい景観を創出する圏域」

【土地利用に関する視点】

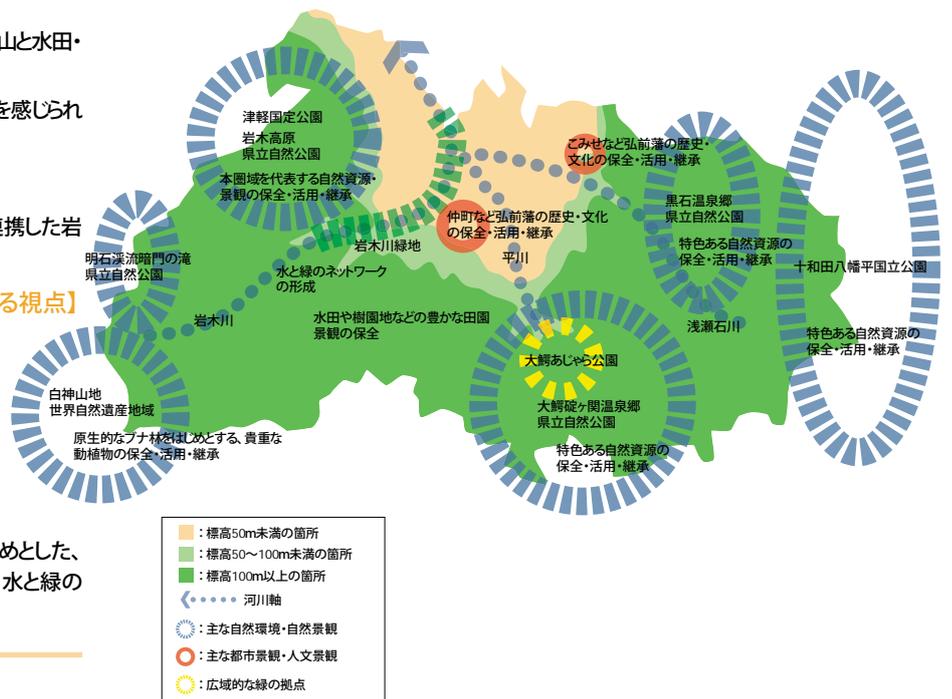
- 樹園地や水田などの農業生産基盤の保全
- 景観法の活用による視点場の確保など、岩木山と水田・樹園地が織り成す眺望景観の保全・創出
- 弘前市・黒石市をはじめとした、歴史・文化を感じられるまち並みなどの保全・活用・継承

【都市施設の整備に関する視点】

- 圏域の水質保全を図るため、西北圏域と連携した岩木川流域下水道などの整備

【自然的環境の整備または保全に関する視点】

- 水田や樹園地などが織り成す、美しい農村景観の保全
- 豊かな水資源を守るための森林や自然環境の保全
- 世界に誇る自然資源と歴史・文化資源との連携
- 岩木川・平川・浅瀬石川と白神山地をはじめとした、豊かな自然や公園・緑地などで構成される、水と緑のネットワークの保全・活用



IV 圏域としての土地利用マネジメントのあり方

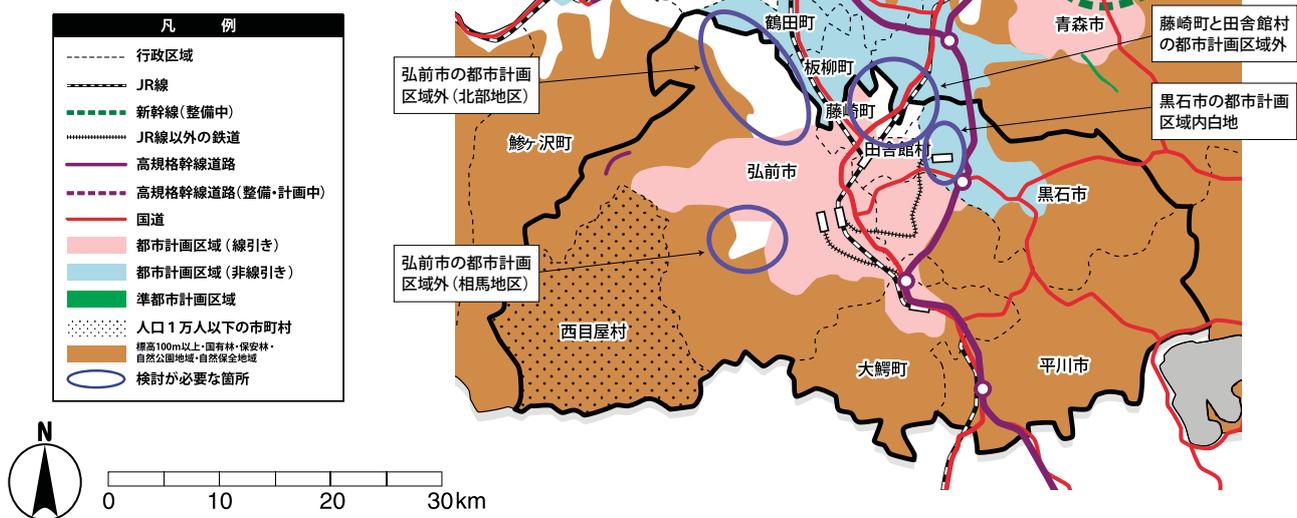
課題

- ▶ 藤崎町と田舎館村の都市計画区域が指定されていない地区では、主に幹線道路沿道で商業施設や大規模な工場がみられる他、住宅などの立地が散在的にみられます。弘前市の市街地に近く、地形が平坦で無秩序な開発が懸念されるため、居住環境や農村環境の保全の観点から適切な土地利用マネジメントが必要です。
- ▶ 都市計画区域が指定されていない弘前市相馬地区では、旧弘前市に近い集落などで住居系の施設が立地していますが、現在のところ、さらに開発が進む動きはみられません。しかしながら、合併により一体の都市として優良な農地や自

然環境を保全する観点から、弘前市としての土地利用マネジメントのあり方について検討が必要です。

- ▶ 都市計画区域が指定されていない弘前市北部地区では、現在のところ開発動向はみられませんが、優良な農地や豊かな自然があることから、これらの保全が必要です。
- ▶ 黒石市の非線引き都市計画区域白地地域で、国道102号バイパス沿道では商業施設などの立地がみられる他、用途地域の縁辺部では宅地開発がみられます。公共投資の効率化と計画的な土地利用を進める観点から、適切な土地利用コントロールが必要です。

図 中南圏域における都市計画上の主な課題



検討すべき項目

- 藤崎町と田舎館村の都市計画区域外で、利便性が高く無秩序な開発が懸念される地区では、良好な居住環境の保全のため、都市計画区域の拡大などを検討します。
- 弘前市相馬地区においては、市町村合併後の実態を踏まえながら、一体の都市として整備、開発及び保全する必要がある区域かどうかを検討します。

- 都市計画区域外である弘前市北部地区は、農業地域、森林地域、自然公園に係る諸制度を活用しつつ、今後の開発動向を踏まえ、必要に応じ都市計画区域の拡大などを検討します。
- 黒石市の非線引き都市計画区域白地地域で、主要道路沿道や用途地域の縁辺部など良好な環境の形成または保持が必要な地区などにおいては、周辺環境との調和の観点から特定用途制限地域や地区計画の指定などを推進します。